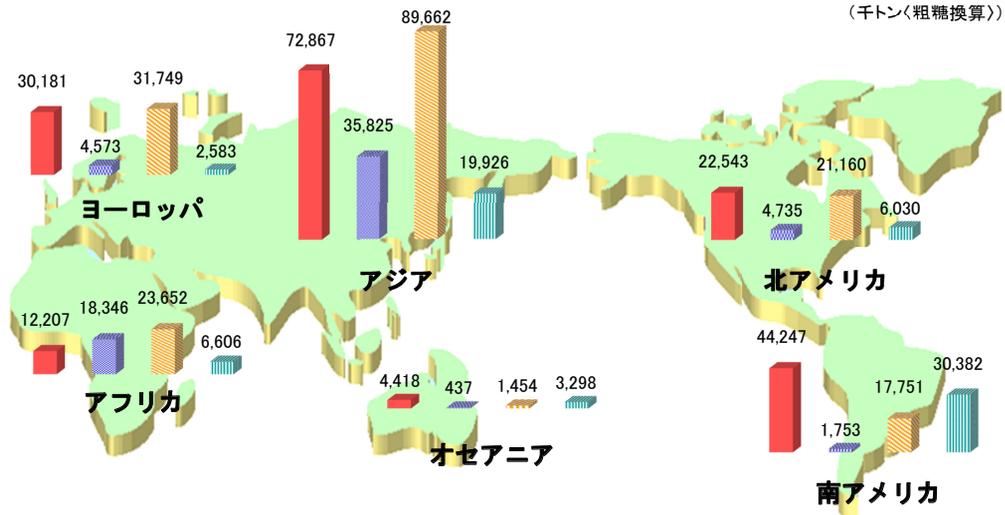


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇

1. 世界の砂糖需給（2022年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,550	65,794	180,581	67,847	81,226	45.0
2018/19	81,226	186,490	61,054	184,247	61,525	82,998	45.0
2019/20	82,998	181,283	69,333	181,131	72,065	80,419	44.4
2020/21	80,419	182,322	67,119	184,808	68,322	76,731	41.5
2021/22 (2021年12月予測)	75,817	183,862	63,391	187,532	64,983	70,554	37.6
2021/22 (2022年3月予測)	76,731	186,462	65,669	185,429	68,825	74,608	40.2

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

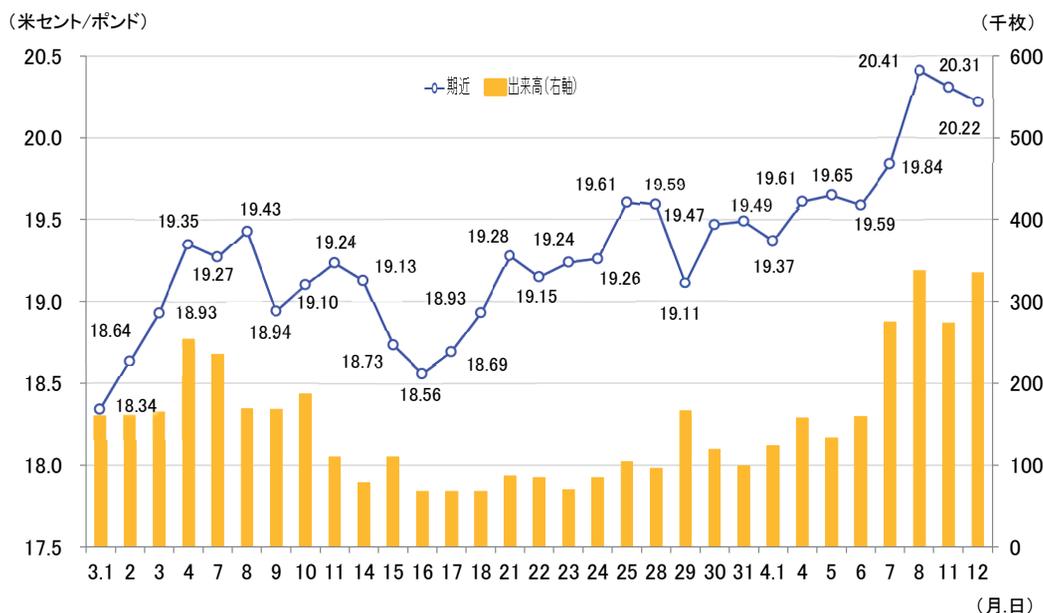
「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2022年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年4月号をご参照ください。
 「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002669.html
 「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002670.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (3/1 ~ 4/12)

～3月中旬に18セント台まで下落するも、4月は20セント越え～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：期近5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2022年3月の推移を見ると（5月限）、1日は、ロシアのウクライナへの軍事侵攻を背景に原油価格が急上昇^{（注1）}する中、1ポンド当たり18.34セント^{（注2）}を付けた。原油価格の急上昇を受けて、砂糖相場も上昇し、4日は同19.35セントと3日間で1セントの上昇となった。7日は、原油価格が上昇する中、2月末時点の砂糖生産量が前年同期を上回ったとするインド製糖協会（ISMA）の前週末の発表を受けて、同19.27セントと反転した。8日は、原油価格の上昇を背景に、同19.43セントまで再び上昇したものの、翌9日は、原油価格の下落や、来年度のブラジル産砂糖生産量の増加を米国大手金融企業が予測したことにより、同18.94セントまで急落した。10日は、ブラジルの国営石油公社による燃料価格の引き上げ

が同国の製糖業者でのエタノールの増産を喚起させるとの思惑から、同19.10セントまで上昇し、翌11日は、原油価格の上昇に伴い、同19.24セントまで値を上げた。15日は、原油価格の落ち込みを受けて、同18.73セントまで下落し、16日は、続落して同18.56セントまで値を下げた。17日は、原油価格が上昇したことを受けて、同18.69セントと反転し、21日は、原油価格の上昇に加え、リアル高^{（注3）}も後押しして同19.28セントと続伸した。25日は、インド政府が砂糖の国内価格の高騰を防ぐために、インド産砂糖の輸出に制限を設けることを検討しているとの報道などにより、同19.61セントまで上昇した。29日は、原油価格が下落したことを受け、同19.11セントまで値を下げるも、30日は、リアル高により価格が支えられ、同19.47セ

ントと値を戻した。

4月1日は、原油価格に追随し緩やかに下落して、同19.37セントで引けた。4日は、ISMAが発表したインドの10月～翌3月期の砂糖生産量が前年同期比11%増の3099万トンだったが、リアル高や原油上昇が支えとなり、同19.61セントと上昇した。7日は、民間コンサルタント会社の予測として、砂糖と比べてエタノール生産の収益性が高く、ブラジルの製糖工場がサトウキビの7割をエタノール生産に振り向けるとの発表を受けて、同19.84セントと上昇し、さらに8日は、続伸して同20.41セントと急騰し、4カ月半ぶりに20セント台を付けた。12日は、原油価格の下落によりやや値を戻し、同20.22セントとなった。

(注1) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年4月時点予測)

ブラジル

2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：853万ha (前年度比1.7%減)

生産量：6億250万トン (同4.3%増)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：3756万トン (同0.1%減)

輸出量：2692万トン (同1.7%減)

2022/23年度の砂糖生産量は前年度並みで推移し、輸出量はわずかに減少する見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) による2022年4月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、大規模な植え替えが計画されているものの、前年度の不作による苗不足から、853万ヘクタール (前年度比1.7%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域において平年より乾燥したものの、サトウキビの生育に好条件が続いたことによ

り6億250万トン (同4.3%増) とやや増加すると見込まれる。一方で砂糖生産量は、エタノールの価格動向に影響を受けるため、現状、エタノール価格が高いことから製糖業者のエタノール製造への仕向が増えると見込まれ、3756万トン (同0.1%減) と、かなり大きく減少した前年度並みで推移すると見込まれる。輸出量も同様に、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などでブラジル産の粗糖需要が低下していることから、2692万トン (同1.7%減) とわずかな減少が見込まれる。

カリウムの価格が1年で3.7倍に高騰

ブラジルの投資銀行が公表した報告書によると、ロシアによるウクライナ侵攻などの影響を受けて、肥料の三大要素の一つであるカリウムの2022年2月の価格は、1トン当たり1100米ドル（13万5729円）^(注)程度と推定され、前年同月の同300米ドル（3万7017円）から3.7倍に上昇したと、3月23日付けの現地報道が伝えた。

同国では肥料の大半を輸入品に依存しているが、サトウキビ生産者の間では、カリウムの輸出量世界第2位であるロシアによる軍事侵攻が始まって以

来、肥料の確保が懸念されている。今般、ロシアは国際的な輸入規制や銀行間取引が制限され、同第3位であるベラルーシも同じく禁輸措置によって、国際市場への輸出が難しくなっている。

カリウムについては、これらの原料供給国での問題のほかに、コンテナや船舶の不足による物流上の問題で、軍事侵攻の前から、供給量不足により価格が上昇傾向にあった。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の3月末TTS相場である1米ドル=123.39円を使用。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,683	8,533	▲1.7%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	577,500	602,500	4.3%	
砂糖	生産量	31,804	44,597	37,610	37,560	▲0.1%
	輸入量	5	5	5	5	0.0%
	消費量	10,842	10,996	10,638	10,638	0.0%
	輸出量	20,321	34,042	27,384	26,921	▲1.7%
	期末在庫量	3,777	3,341	2,935	2,940	0.2%
	期末在庫率	12.1	7.4	7.7	7.8	0.1ポイント増

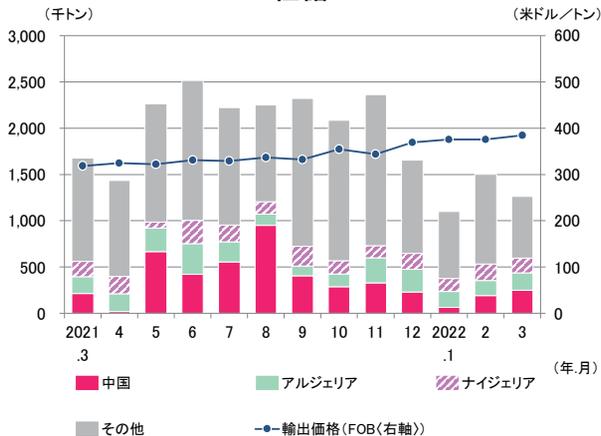
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

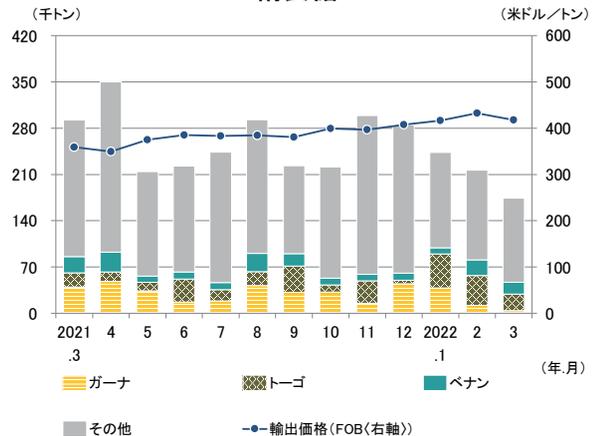
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：509万ha（前年度比3.7%増）
生産量：4億3754万トン（同3.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3743万トン（同11.3%増）
輸出量：973万トン（同13.4%増）

2021/22年度の砂糖生産量と輸出量は、かなり大きく増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、509万ヘクタール（前年度比3.7%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億3754万トン（同3.8%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した10月頃の大雨の影響が当初の見込みより小さいとみられるほか、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州の

サトウキビ生産量が予想を上回っていることを要因に前月予測から上方修正され、3743万トン（同11.3%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、砂糖の国際価格の上昇による輸出意欲の高まりを受けて先月予測の857万トンから上方修正され、973万トン（同13.4%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。なお、バングラデシュでは、国内消費量の9割以上を輸入で賅っており、平時と比べて砂糖消費量が増加するラマダン（イスラム教徒の断食月）が始まる4月に向けて、国内の在庫を確保する動きがあると現地報道は伝えている。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

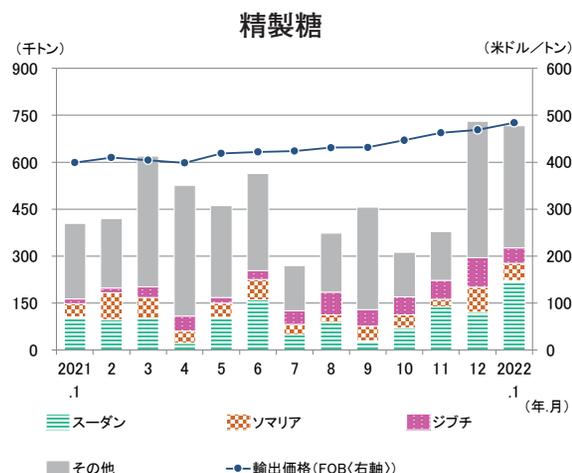
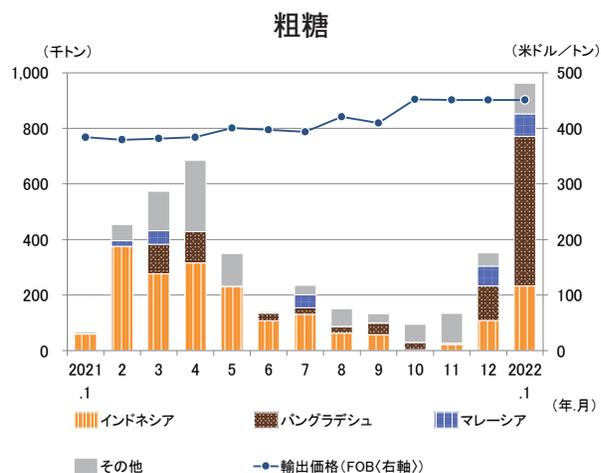
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (3月予測)	2021/22 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,906	5,050	5,089	3.7%	
サトウキビ生産量	404,528	369,805	421,687	424,745	437,543	3.8%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	35,798	37,426	11.3%
	輸入量	664	1,687	1,022	216	216	▲78.9%
	消費量	27,648	27,324	28,679	29,052	29,376	2.4%
	輸出量	5,504	8,288	8,582	8,566	9,734	13.4%
	期末在庫量	14,833	10,452	7,854	6,675	6,386	▲18.7%
期末在庫率	44.7	29.4	21.1	17.7	16.3	4.7ポイント減	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha（前年度比3.6%減）

生産量：7389万トン（同0.4%増）

【てん菜】

収穫面積：14万ha（同37.8%減）

生産量：712万トン（同42.5%減）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：993万トン（同13.9%減）

輸入量：704万トン（同14.6%減）

2021/22年度の砂糖生産量と輸入量は、いずれもかなり大きく減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール（前年度比3.6%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の天候が良好であったため、7389万トン（同0.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により^(注)、14万ヘクタール（同37.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、収穫面積の減少や冬季の寒波などを背景に、712万トン（同42.5%減）と大幅な減少が見込まれる。

砂糖生産量は、原料の減産に加え、てん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停

止や、降雨によるサトウキビ収穫の遅滞などを受けて993万トン（同13.9%減）と1000万トンを割り込む減少が見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き2021年も国内生産の不足分を上回る量が輸入されていることで、国内在庫の積み増しが想定されることから、704万トン（同14.6%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

(注) 同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告（2021-2030）を公表（飼料編）（中国）」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.htmlを参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

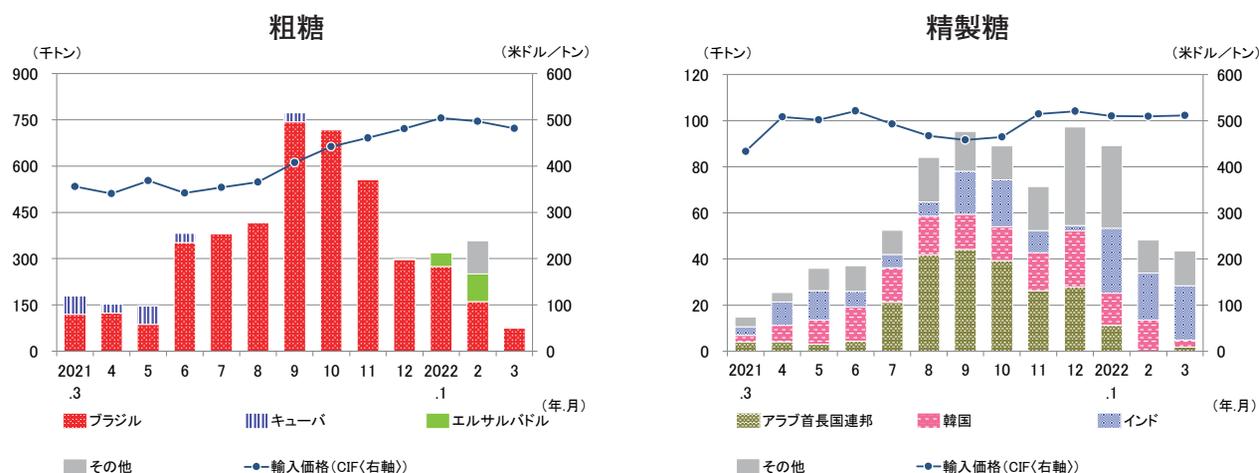
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (3月予測)	2021/22 (4月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲ 3.6%
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	73,890	73,890	0.4%
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲ 37.8%
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	7,117	7,117	▲ 42.5%
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,403	▲ 13.9%
	輸入量	5,038	6,595	8,245	6,742	▲ 14.6%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	130	▲ 3.6%
	期末在庫量	11,218	12,466	15,260	15,273	▲ 0.0%
	期末在庫率	67.0	75.1	89.9	90.0	89.9

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha(前年度比1.4%減)

生産量：1億1021万トン(同12.0%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1711万トン(同13.1%増)

輸出量：135万トン(同6.9%増)

2021/22年度の輸出量は、かなりの程度増加する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール(前年度比1.4%減)とわずかな減少が見込まれる(表5)。てん菜生産量は、干ばつの影響を受けた前年と比べ、今期は生育期間

の降雨量が多く、生育状況が順調であることから、1億1021万トン(同12.0%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、2021年末以降スペイン南部で発生している干ばつの影響があるものの、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨量が多く、大規模な病虫害も発生していないた

め、1711万トン（同13.1%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、前年同期と比較して輸入ペースが鈍化しているため前月予測から下方修正され、135万トン（同6.9%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

フランス国内でのてん菜の播種がほぼ完了

現地報道によると、フランス国内のほぼすべての地域で、今期のてん菜の播種が行われたという。てん菜生産者組合（CGB）によれば圃場の95%以上で播種が完了し、作付面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%減）とやや減少すると見込まれる。

てん菜生産において、萎黄病（注）を媒介するアブラムシの防除に最も有効な薬剤とされているネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されているが、例外的な措置として、てん菜種子のコーティング処理へ

の一時的な利用が2022年2月1日に認可された。例年、播種作業は3月初旬から行われる中、認可が直前となったにもかかわらず、処理済の種子は各生産者へ迅速に配達されたとされ、種苗会社の関係者によると、今期播種された種子の80%から85%は処理済の種子であったと推定されている。

3月初旬から行われた播種作業は、降雨による一時的な中断があったものの、3月17日頃には再開され、それ以降は好天が持続する中で作業は円滑に行われた。その後、播種がほぼ完了した3月30日からは降雨が続いたことで、種子が均一に発芽することが期待されるという。

（注）アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気で、てん菜の単収減少を引き起こす。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (3月予測)	2021/22 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,601	1,517	1,476	1,455	1,455	▲ 1.4%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,420	110,107	110,214	12.0%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,138	17,089	17,114	13.1%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,932	1,890	0.1%
	消費量	17,647	17,016	16,887	17,409	17,342	2.7%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,430	1,349	6.9%
	期末在庫量	1,633	2,382	1,260	1,557	1,572	24.8%
	期末在庫率	8.2	12.9	6.9	8.3	8.4	1.5ポイント増

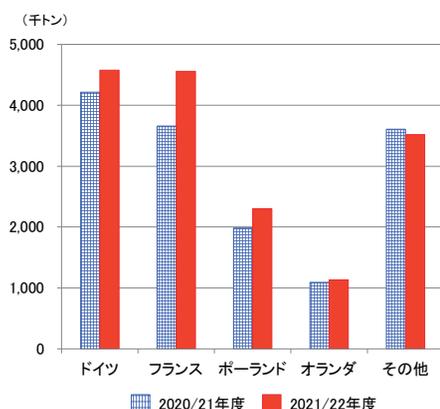
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

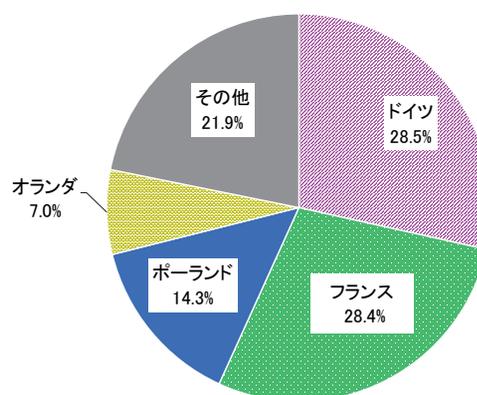
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2022年2月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
 注1：精製糖換算。
 注2：2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度は予測値。

国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2022年4月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2021年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比0.9%減）

生産量：2995万トン（同3.3%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：413万トン（同3.3%減）

輸出量：318万トン（同4.5%減）

2022/23年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比0.9%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、2995万トン（同3.3%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、2月末から豪雨が続き、サトウキ

ビの主産地であるクイーンズランド州およびニューサウスウェールズ州北部で深刻な洪水が発生し、サトウキビ圃場の一部で浸水被害が発生したことで、生育途中のサトウキビは今後の生育が大きく阻害されると予測され、413万トン（同3.3%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、生産量の減少を受けて、318万トン（同4.5%減）とやや減少すると見込まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	364	354	350	347	▲ 0.9%
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,961	29,951	▲ 3.3%
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,272	▲ 3.3%
	輸入量	17	10	15	13.3%
	消費量	1,085	1,041	1,039	▲ 0.6%
	輸出量	3,449	3,357	3,326	▲ 4.5%
	期末在庫量	747	744	666	▲ 8.7%
	期末在庫率	16.5	16.9	15.3	14.5

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9200万トン（同38.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1078万トン（同35.3%増）

輸出量：777万トン（同96.8%増）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と横ばいで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が平年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9200万トン（同38.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、可製糖率（CCS）の低さ（注1）や、グリーンハーベスト（注2）の普及を背景とした梢頭部や葉などの混入が製糖効率を低下させているものの、前回予測から上方修正され、1078万トン（同35.3%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、サトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて、777万トン（同96.8%増）と前年比で倍増が見込まれる。なお、期末在庫量は、増産見込みながらも、輸出量の大幅な回復から457万トンと前年度よりも減少し（同9.4%減）、期末在庫率も40.4%（同26.4ポイント減）と19/20年度に近

い水準にまで大幅に低下すると見込まれる。

（注1）CCSとは、サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。平年よりも降雨量が多いことが影響し、同年度の平均的なCCSは前年度より2%ほど低い12.6%で推移している。

（注2）サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。

ASEAN諸国からベトナムへの砂糖輸出量が増加

ベトナム砂糖サトウキビ協会（VSSA）は、貿易救済措置として、2020年にタイ産砂糖にアンチダンピング税および補助金相殺関税が課されて以来、同税の対象となるタイ産砂糖が、ASEAN5カ国（カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー）を經由してベトナム市場に流入していると発表した。現地税関のデータによると、2020年10月から2021年6月にかけてタイからの輸入砂糖は59万5000トンと、前年同期の95万5500トンから38%近く減少した。一方、同期間におけるASEAN5カ国からの砂糖輸入量は10万7600ト

ンから52万7200トンと急増している。

この状況を踏まえ、VSSAは国内砂糖メーカーと協力し、ベトナム産業貿易省に対し、タイ産砂糖に係る貿易救済措置の回避の実態について調査を依頼

するとともに、ベトナム税関総局に対し、砂糖貿易を一層注意深く監視し、不正輸入を取り締まるよう要請した。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

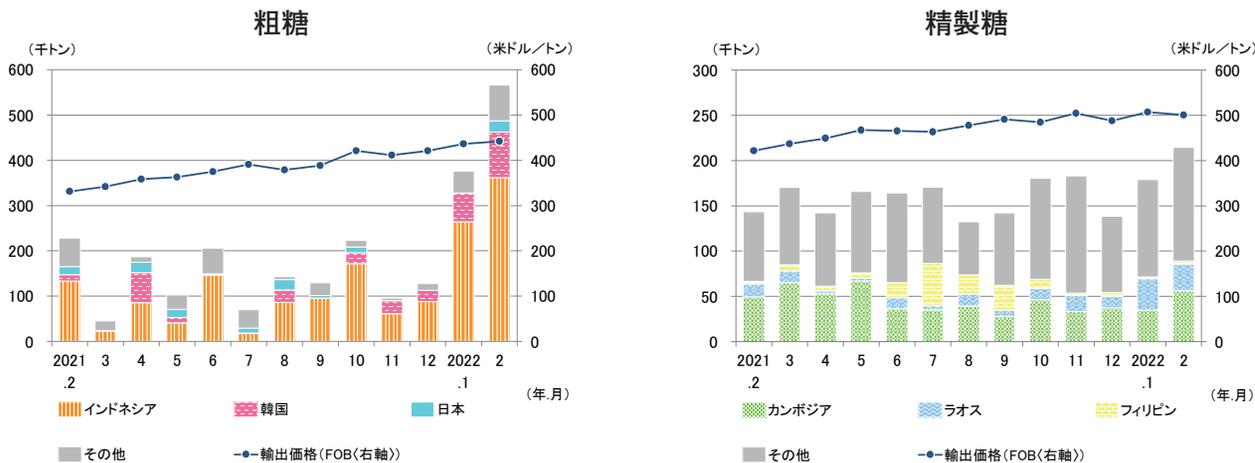
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (3月予測)	2021/22 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	88,000	92,000	38.0%	
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,305	10,782	35.3%
	輸入量	4	59	86	35	35	▲ 59.5%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	3,521	▲ 2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,307	7,773	96.8%
	期末在庫量	7,899	4,525	5,041	4,553	4,565	▲ 9.4%
	期末在庫率	57.0	37.0	66.8	42.0	40.4	26.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。